



文部科学省

職員のウェルビーイングを高める先進的なオフィス改革

～行くのが億劫な職場から、働きたくなるオフィスへ～

経緯

令和7年4月、総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課および学力調査室は「行くのが億劫な職場から、働きたくなるオフィスへ」のコンセプトのもとに、省内ひいては霞ヶ関随一の魅力的なオフィスを目指して省内のパイロットオフィスに選出され、令和8年1月に工事が完了しました。

【目的】

従来のオフィス改革においては、効率化のための打合せスペース改革などが中心で、職員の快適さは重視されていなかった。「閉鎖的」「来たいとは思えない」など、職員の職場環境への満足度が低い^(※)ことを踏まえ、「**職員の快適性・ウェルビーイングの向上**」を最重要目的として、快適な席を自分で選べるオフィス環境の改善を目指した。

※改装前、従来のオフィスのNPS@指標（推奨者の割合(%) - 批判者の割合(%)）は-52.8と極めて低い。

【概要】

- ・ **ABW（*Activity Based Workingの略）を導入し、業務内容や気分、体調など、個人個人が置かれた状況に応じて、その人が最も快適に、または効率的に働くことができるよう、働く場所などを選べる環境づくりを行った。**（右図が全体像）
- ・ 現員39名、席数48席。余裕を持って席を選べ、打合せも容易。**管理職席はなし。**
- ・ 両課室混合のオフィス改革事務局にて事務を担った。補佐級1名、係長級1名、係員級5名（補佐級を除き全員が入省4年以内）の若手中心の構成。



【オフィス改装後の効果】

- ・ **ウェルビーイングの向上！**
緑視率を意識した緑の配置と、窓際の管理職を廃止したことによりブラインドを開けられ、外光を取り入れた人に優しい意匠に。また、立ち仕事もできるようになったことで、健康促進にも繋がっている。
- ・ **部署内交流の促進！**
座席が離れておりこれまで話さなかった様々な人と自然に交流が生まれる。
- ・ **ペーパーレスの促進！**
紙は自然と必要最小限の使用となり1月のA4コピー用紙新規発注数は0箱。（昨年1月は計16箱×2500枚を発注）
- ・ **機密性の向上！**
機密情報を扱う学力調査室をパーティションで物理的に区切ることで外部からも機密エリアが分かりやすく、かつ機密文書管理が行いやすくなった。
- ・ **緊急事態への対応！**
座席配置に制限されずに、打ち合わせスペースも余裕が生まれたことにより緊急時に即座にチームで集まれて柔軟に共同作業が可能になった。
- ・ **省内全体の意識改革！**
省内で先進的なオフィス改革を行ったことにより、一部政務や管理職等のオフィス改革に対する意識を変えることができた。



(参考) 以下は実施1か月前・後に効果検証として5段階でオフィスを評価した結果。

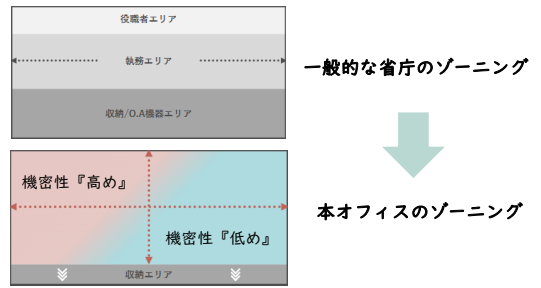
○心身が健康に、快適に働きやすい空間である	3.06→4.17 /5
○やる気が出る・モチベーション高く働きやすい空間である	2.86→4.19 /5
○1人で効率的に仕事がしやすい	2.61→4.14 /5
○ペーパーレスな働き方を実践している	2.56→4.25 /5

文科省のオフィス改革はここが違う！TOP3

1

思い切ったゾーニング

多くの省庁：収納スペースや複合機部分が面積を占める3階層に区切る狭く感じやすいゾーニングでオフィスを構築している。
本オフィス：機密性でゾーニングを再構築し、縦横を広く使い、交流が生じやすいグラデーションのあるゾーニングとしている。



2

「選べる」個性あふれる魅力的な座席

- ・ 配席に10席ほど余裕を持たせ、それぞれ配置や機能に特色のある座席を配置。
- ・ ただ画一的な机でフリーアドレスにするのではなく、気分を選べるような座席に。

3

若手中心で作った運用ルール

- ・ コンサルの手を入れず、職員目線で作成。
- ・ 事前に2回ほど課室全員を5名ずつに分けて説明や相談を行い、出た要望に丁寧に対応。
- ・ 「運用ルール」という名前であっても、コンセプトの説明や改装のメリット・想定されるデメリットをしっかりと最初に説明することで、人事異動後も、このオフィスの趣旨を理解してもらえるよう持続性を確保した。